新居町の見学へ

数年前、掛塚の町巡りの企画があり、この機会にと参加しました。津倉邸の中を細かく説明して頂いた後に掛塚の町を歩きました。生まれてからずっと掛塚に住んでいるのに、掛塚まつりの豪華な屋台が、昔栄えていた廻船問屋の財力を背景に作られたもので、貴船神社が主として船の航海安全を祈る神社であること位しか知りませんでした。

この時から少し掛塚の町に興味を持ち、自分の小さな頃とは随分様変わりしたなと感じながら、時代の流れで仕方が無いのかなと思いつつも活気が戻ったら良いのにと思っていました。そのような時、この会の方からお誘いを受けて「みんなと倶楽部・掛塚」に参加しました。

今年の9月7日には新居町を見学に出掛けました。新居町には関所跡が残され、その周りの家並みはその当時を感じさせてくれる趣のある雰囲気に整備されていました。又、磐田市出身で足立美術館や米ボストン美術館などの造園で世界的に知られる故中根金作（1917～1995）さんが手がけた庭園が数多く残っていました。文化事業に熱心だった当時の新居町長から依頼を受け携わったそうで、公共施設の近くには特に多く庭園が残されていました。旧新居町時代に文化事業に力を入れていた様子は、多くの故郷施設の建て方の素晴らしさからもよく分かり、特に幼児園と消防署は目を見張る物でした。しかし時代の流れの中で地方が寂しくなっている様子は掛塚と共通するものと感じました。

先人が残した歴史に想いを馳せ、地域活性に努力されている方とお会いして、共感できた良い経験でした。掛塚のまちがどのようにしたら元気になれるか、若い方から年配の方まで、多くの方々と活動が出来ればと願っています。

記事 兼子しづ子

新居文化公園

中根金作さんが手掛けた庭園 ↓

老人センター庭園

同町のガーデニングデザイナーの方が中心となり地域おこしの活動に取り組んでいて、昼食に出された「ぼく飯」を「あと引き煎餅」や「うず巻き」の銘菓と共に新居町の名物にしたいと話していました。「ぼく飯」とは、養殖池で出荷を逃れ大きく成長し人の腕ほどに太ったウナギ（ぼっくい）、「ぼく」と呼んだ）を使ったウナギ飯で、出荷できないのでまかない食にしたそうです。

みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

第15号

P1 新居町の見学　兼子しづこ

P2-P3 旧局舎で「郵便の歴史展」

P4 ちょっとい～け？　竹内敏男さん（本町）

ちょっとい～け？

温故知新！ 掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組（のりこ&さゆり）がインタビュー。今回は、本町の竹内敏男さんにお話を聞いてきました。

竹内敏男さん 88歳（本町）

―竹内家の家業について教えてください

初代の市三郎は明治16年に掛塚本町へ移り住み、製材業が盛んだったことから丸太から板や角材を挽く鋸、「前挽大鋸」（まえびきおが）を作る事業を起こしました。この木挽きは製材の前身で、十郎島の堤防がまだ整備されてなかった当時、二俣から筏で流してきた材木は掛塚で木挽きしてから船で江戸へ運んでいました。大鋸の作り方は、刀と同じで玉鋼を叩いて作っていたようです。

二代目は農協に勤めていたサラリーマンで組合長をやっていました。

戦後、東京へ丁稚奉公に行っていた三代目の市司（お父様）が戻り、それまでの製材との付き合いから「刷りこみ板」を始めたんです。加工した板や柱に製材の名前や品質（ひのき二等など）、寸法（○尺○寸）、製作者（○○製材）を刷るための板を一家総出で手作業で作りました。父が毛筆で書いた文字を板に移して、長男・次男のお嫁さんたちがコツコツと鑿（たがね）で切り抜いていく。俗称は「看板屋」と呼ばれていました。製材所ではその看板を木材に当てて硝煙の塊を溶かしたものをシュロの木の皮を割いて作ったものを筆代わりにして刷っていたんです。その他にも山主さんからの依頼で伐採した丸太に商標を刻印するための型も金物を曲げて文字を作り、文字を固定して最後は銅版を溶かして作っていました。

私は見中（県立見付中学校＝現磐田南高校）を卒業後、東京で働いていましたが、27歳の頃に長男だからと呼び戻され家業を手伝ったんですが、だんだんと製材業が下向きになってそれをきっかけにパッキンに入って定年まで勤めました。家業は三代目が亡くなって終わりました。

―戦争の体験と戦後の東京についてお聞きしました

昭和20年5月の磐田空襲では、掛塚の同級生三人が、帰宅途中に逃げ込んだ防空壕に爆撃されて亡くなりました。私も友人との帰宅中で、低空飛行（操縦士の顔が見えた）で飛んできたグラマンの機銃掃射にあいましたが、堤防の反対側に隠れて助かりました。この日、磐田で大勢の学生や子供たちが亡くなったんです。本当にひどい時代でした。

―県中を卒業後はいざ東京へ！

東京まではSLで6時間。戦後の東京で夜学へ通いながら「東芝」へ入社しました。食べるものがない時代で下宿の朝食は食パン半分とお茶だけ。下宿のあった蒲田駅の周辺には闇市がたくさん出ていました。私が掛塚に戻ってきた時、東京タワーはまだ建設中で、東芝はブラウン管テレビや洗濯機、冷蔵庫などが主な商品でした。

―現代に残る竹内家の軌跡・・・（一部ですが・・）

- 初代市三郎さんが明治時代に作り、どなたかに送られた年賀状が見つかっており、屋号「錠前鍵屋」の商標「上」の下に「鍵のマーク」が書かれています。

※竜洋町史に掲載

- 明治39年に連名で寄贈され、現在も屋台上で使われている本町の大太鼓には市三郎さんを含め三人の名前が大きく刻まれています。この年、江戸時代の弘化3年生まれの市三郎さんは還暦を迎え、師走にはお孫さんが生まれています。（お二人共丙午生まれ）
- 貴船神社の境内にある灯篭に彫られた寄贈者の方々の名前の中にも「竹内市三郎」と。
- 貴船神社の拝殿へと上がる階段の下に敷かれたコンクリート。これは二代目多喜次さんが、お嫁に行く娘さんに「人に踏まれて頑張りなさい」との想いを込めて寄付されました。
- お父様の市司さんは笛の名手でした。後に神社の総代をつとめられ当時の笛は現在も息子さんが大事に保管されています。
- 豊岡にある戦没者慰霊塔にはこの地域の戦没者の名前が刻まれた銅版が納められています。その中には市司さんが依頼され彫った物も。達筆だった市司さんの文字は今も息子さんのお宅の表札に残されています。

● 本町の大太鼓

● 貴船神社灯籠

● 貴船神社のたたき

二代目は菩提寺の入山式の際に親代わりを務めたこともあるそうです。寄付された物などからも竹内家の繁栄と御当主の地域やご家族を想う気持ちが伝わってきました。

［取材・記事 のりこ&さゆり］

みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

● 会　長　池田藤平
● 事務局　名倉慎一郎、大沢利行
● 編　集　靏田茂巳、山内紀子、鈴木小百合　須田明広、長谷川 智

お問い合せ
ご興味のある方は下記までご連絡ください！
☎0538-66-4775（名倉）

旧局舎で「郵便の歴史展」

記事 長谷川 智

掛塚まつりにあわせて、旧掛塚郵便局では「郵便の歴史展」が開催されました。旧郵便局を公開してのイベントは今年で3回目、局前での法多山の厄除団子の販売は2回目になります。定着しつつあるイベントの様子をお伝えします。

せっかくの機会なので、掛塚郵便局の歴史を振り返ってみます。

開局は1873年（明治6年）です。東京と大阪の間で郵便取扱所ができたのがその2年前ですから、全国でも古い郵便局になります。掛塚は江戸時代、「遠州の小江戸」と呼ばれていました。そんな経済力が背景にありました。

最初は津倉邸の南側、現在アパートが建っている砂町にありました。1935年（昭和10年）、白羽に移転し、現在の木造モルタル2階建ての建物ができました。正面の上部にある郵便局のマークは今でもきれいで、ていねいな建築だったことがうかがえます。

昔は郵便局が電話交換業務を行っており、局舎の電話を一般の人が利用していました。局内には交換機が設置され、若い女性が電話を受けて通話相手を聞き、コードを通話先のジャックにつないでいました。自動化で交換業務を廃止したのは1965年（昭和40年）です。スマホ時代の今では考えられないことでしょう。局では20人ほどが働いていました。当時は周辺に多くの商店もあり、掛塚一の繁華街でした。年末には交通渋滞もありました。当時は記念切手が人気で、発行日には大勢の人が窓口につめかけました。

手狭になって1967年（昭和42年）、白羽の国道150線沿いに移転し、1986年（昭和61年）、現在の竜洋西小の東側の川袋に移転しました。2012年（平成24年）、旧掛塚郵便局舎は裏にある蔵とともに国の登録有形文化財になりました。

掛塚まつりと連動したイベントを振り返って。

最初は2年前ですが、入り口付近だけの公開でした。展示したのは、掛塚の商店の明治時代以降の引き札です。引き札は今でいえば店のチラシで、趣向をこらした絵で店のPRをしています。来場者には好評で、「この店はどこにあったんだろうか」「この店は今もある。味のある絵だねえ」といった会話が聞かれました。あいにく2日間とも雨が激しく、地元以外の人が少なかったのが残念です。

昨年は建物の中に上がって見学できるようにしました。展示したのは、砂町出身でダーウィンを広く日本に紹介した生物学者・丘浅次郎に関する資料です。丘は1868年（明治元年）に生まれました。多くの社会評論を続け、戦前には多くの人に影響を与えました。「生物はその強みで繁栄し、いずれ強みが弱みとなって滅びる。人類も同じ運命をたどる」と主張しました。教育分野の評論も多く、「人間はごくわずかのことしか知らない。自由に考えることが大切だ」と強調し、自然環境と調和しながら謙虚に生きるよう書いています。文章も高く評価され、教科書にも採用されました。

郵便かばん

法多山の厄除団子は見事に売り切れ！

10個の歴代のポストの展示です。

昔の衣装。左が江戸時代の飛脚。右が明治時代の制服。

子どもたちが昔の郵便局員の制服を身につけて楽しみました！

展示では磐田信用金庫の情報誌に掲載された丘の評伝、朝日新聞の記事、著書、丘の文章を司馬遼太郎が称賛した本などを紹介しました。丘の斬新な思想や業績を少しでも知ってもらう機会になればと思いました。

今年は郵便局らしく「郵便の歴史」に関する展示をしました。

公益財団法人・通信文化協会が運営する郵政博物館が、イベント用に様々なキットを貸し出しており、関心を集めそうな展示物を借りました。

目玉は江戸時代の飛脚の服装、明治時代の郵便外務員の制服とかばんです。希望者に着てもらい、スマホで撮って楽しんでもらおうと思いました。飛脚の服装は粋なはっぴ風の上着です。明治になると、赤いラインの入った少し気取った上着やマントになります。頭にかぶる笠のような帽子も少しずつ変化しています。かばんも四角張ったものから柔らかいものに変わっています。時代の雰囲気や使い勝手に応じて変わっていったのでしょう。小さなお子さんのいる人たちがマントを羽織って写真を撮っていきました。かわいい郵便局員がどこかのSNSに登場しているのではないでしょうか。

日本の歴代のポスト10種類も展示しました。屋根をつけた箱から、赤くて丸いポスト、四角いポストへと変化していきます。郵便の父・前島密の一代記も展示しました。紙芝居風に前島の一生を紹介しています。生まれは今の新潟県ですが、1869年（明治2年）、34歳で駿府藩の遠州中泉奉行（今の磐田市）に就任しました。在任は8カ月ほどでしたが、職を失った幕府の役人の面倒を見たり、学校を作ったり、多くの実績を残しました。JR磐田駅の南口には銅像があり、地元と縁の深い人でもあります。この他、アニメのヒーローがあしらわれた世界の切手、お年玉年賀はがきのうつりかわりも展示しました。

法多山の厄除団子は2日間で400個を売り切りました。土曜日は雨が降って出足はいま一つでしたが、日曜日は好天でどんどん売れました。日曜日の午前中は遠州各地のうたを歌うシンガー・ソングライター「うめたちあき」さんも登場。やさしい歌声で道行く人を楽しませました。うめたさんは天竜川沿いの旧佐久間町西渡の出身で、天竜川への思い入れがあり、みんなと倶楽部の会員にもなっています。同じメロディーで遠州各地の詩を作って歌う「うた絵巻」に取り組んでおり、今年4月に「掛塚のうた」を公開しました。局舎ではずっとこのうたを流しました。

INFORMATION お知らせ

私事になりますが、私、長谷川 智は朝日新聞の記者をしています。丘浅次郎展では私の記事を紹介しました。

丘の主張をぜひ多くの人に知って欲しいと思い、年明けに**「人間を考えるヒント　ダーウィン紹介者・丘浅次郎の知恵」**を出版します。

県内主要書店、ネット通販で購入できます。
郷土の偉人について、地元の多くの人にもぜひ知ってもらえればと思います。